

僕は最初に、この一つの出来事でこれほどの被害が出て人が死んでしまおうんだと思いました。特に驚いた記事はガスと水が使えなくなるという事で、もし僕がそのときに生きてたらパニックになったり、生きる気力を失って絶望していたと思います。僕は三好さんの話を聞いてこれから僕が大人になった時の子供たちに話せたらいいなと思いました。他にも20年以内に起こる南海トラフ巨大地震に備えていけたらなと思いました。今僕にできることは今日聞いた話を家族にすることなので家に帰ったら話を家族にしたいと思います。

阪神淡路大震災を学んで

今日は阪神淡路大震災について学びました。校長先生や三好さんから阪神淡路大震災について学びました。まず最初は、校長先生から新聞を渡されて、黒板に新聞に書いてあったことを書きました。みんな書いていたので黒板はすぐに埋まってしまいました。それを10分ぐらいやって、その後は三好先生は、神戸新聞本社の画像などを見せてくれて、当時の大変さを僕たちに伝えてくれました。時間がオーバーしてしまいましたが、それでも話は充分伝わりました。校長先生・三好先生今日は、本当にありがとうございました。

新聞を読んで当時の状況、人々の様子などがよくわかりました。人々の言葉の中で特に印象に残っているのが、

「一つの時代が終わった気がした」です。この言葉から、時代が終わったかのように全てのものが変わっていたということがわかりました。

三好さんは、新聞社の様子や、新聞はどうやって刷ったのかまた、当時の人のことなどについて話してくれました。とてもわかりやすく説明してくれたので、状況がよくわかりました。

新聞や三好さんの話で、阪神・淡路大震災のことは語り継いでいかないといけないと思いました。

もし、語り継がれていなかったら震災が起きたとき、対策を立てていなかったのでたくさんの被害を出しているかもしれません。なので震災のことを語り継ぎ、震災に備えて対策を立て、被害が防げるようにしようと思います。

実際に阪神淡路大震災を経験された方から話を聞いて、自分が思っていたより大変な事だなと思いました。新聞には、数千人が亡くなったり行方不明になったりしたという記事や、何兆円もの被害があったと書いてあったので、とても怖く感じました。三好さんは奇跡的に起きていたけど、もし阪神淡路大震災が起こったときに寝ていたら死んでたかもしれないと言っていたし、地震はいつ来るかわからないものなのでそういう面でもとても怖いなと思いました。僕は大きな地震を体験したことがないから本当にその場にいた時の怖さはわからないけど、これから先の人に繋いだり話すことはできるので、これから先もこの思い、つらさや悲しさが伝わっていくといいなと思います。これから数年先に起こると言われている南海トラフ地震が起こったときに、家族とはぐれないように集合場所を決めたり、缶詰とかを保存しておいたりして地震に備えて行きたいなと思います。

1995.1.17 阪神・淡路大震災の話を聞いて

今日、新聞を読んで私は普段、新聞を読まないのですが、みんなで黒板に書きだすことで、人々の声などいろいろなことがわかりました。三好さんの話を聞いて三好さんの働いている建物などが倒れたり、ガラスが割れたりして大変だったんだなと思いました。それでも町がもとどおりになっているのすごいなと思いました。

最後に校長先生が言っていた阪神・淡路大震災を大切にすゝつないでいくのことで私は、亡くなった6434人の人たちのことを思って阪神・淡路大震災を大切にしていきたいです。私ができることは防災の用意をして、こういう災害に備えておきたいです。

～阪神淡路大震災を学んで～

阪神淡路大震災の新聞を読んで、「1月19日死者3000人を超す」という新聞がありました。阪神淡路大震災が起こって二日しかたっていないのに、3000人の人が亡くなっていてびっくりしました。他にもいろんなことが書いてある新聞がたくさんありました。

阪神淡路大震災があったのは知ってるけど、詳しく知らなかったの
で今日詳しく知れて阪神淡路大震災のことをつないでいく大切さが
わかりました。つないでいく理由は、みんなが繋いで行かないと、
阪神淡路大震災のことを知らない人が多くなり、巻き込まれた人た
ちの気持ちがわからないかも知れないから、つないでいくのは大切
だと思いました。阪神淡路大震災を知らなかったら、大きな地震が
来たときの対策とか、何メートルまで津波が来るんだろというのを
知らないで逃げれなくて亡くなってしまう可能性があるからです。
だから、みんなが繋いで、阪神淡路大震災を知ってもらい少しでも
亡くなってしまう人を減らすためにみんながつなげる必要があるん
だと思いました。

私は新聞や話を聞いて1995. 1. 17は阪神や淡路にとってものすごく大きな出来事が起こった日で、いろんな人が家や家族を失ってたくさん苦しくて悲しい、怖い思いをしてたことがわかりました。 私はこの阪神淡路大震災を先生や三好さんがわざわざ教えてくれることの意味は、やっぱりこの震災を経験した人はたくさん苦しい思いをしてきたからそれを私たちも忘れない、知っておくためだと思います。 私はその話を先生、三好さんから繋げてもらえたから、次は私が阪神淡路大震災を知らない人に、毎年阪神淡路大震災についてみんなで話すことによって忘れないでいられるからそれが私にとってできることなのでこれからも阪神淡路大震災を忘れないために大切に話していきたいです。

(阪神・淡路大震災の話を聞いて)

新聞を読んで、死者がたくさん出て大変だったんだなと思いました。2日たった時点でなくなった方が、3000人は多いなと思いました。天文科学館の時計も5時46分で止まり電気も使えない状態で、救援物資が来て喜ぶ人が多かったです。明石市でも大きな被害があったそうで、例えば、震災で石垣が壊れた明石城などがあって明石市も28年前は大変だったことがわかりました。

(阪神・淡路大震災大切にする理由)

阪神・淡路大震災を体験した人たちは、次の世代でまたこのような災害が起きるかもしれないから、昔こんなことがあったと言うことを知っておいて、どんどん次の世代に受け継いでいきたいということが込められていると思いました。

感想1月17日

僕は三好さんの話を聞いて、地震が起こった後はとても辛かったということもわかりました。

1995、1月18日の新聞には、ビルがボロボロで救助している写真がありました。他の新聞には、「力合わせ再建のつち音」や「助け合い」「祈り」「協力」等の写真もありました。写っていた人たちは本当に「地震起きた？」と言えるぐらいの笑顔でした。僕はこんな状況でも笑顔でいれるのがすごいと思いました。阪神淡路大震災は、戦争よりも怖い。でも自分は戦争がどれだけ怖いかそんなに知らないし、実際に戦争をしたこともないまだ子供だから、できることも少ないから三好さんは、阪神淡路大震災はいろいろな大変だったことがわかりました。

今日話を聞いて

阪神淡路大震災は当時の被災地は大変だったというのを改めて思いました。日にちが進むにつれて死者が増えたり行方不明者が出たり、土砂崩れで500人以上が生き埋めになったり建物に潰されたり、阪神淡路大震災は戦争よりも怖いものというのがわかりました。次にここら辺にくるとされているのは南海トラフです。僕は地震とか津波がホントに怖くて家のリュックに避難がすぐできるように道具や文房具、必要最低限のものを入れていきます。未来南海トラフが来ても被害が少ない街づくりを目指したいです。

阪神淡路大震災をつないでいくのはなぜなのか

阪神淡路大震災で亡くなった人たちや、それにより心が傷んでしまった人々の思いを忘れないために、未来の僕らへ継いでいるのではないかなと思いました。

阪神淡路大震災が起きた後の学校、大学、その他の建物の新聞記事がありました。そして被害額10兆円とありました。僕はこれを聞いて、ビックリしました。そして死亡者数が日本人だけでなく国籍不明の外国人がいました。僕はこれを聞いて改めて地震がより一層怖く感じられました。そして阪神淡路大震災を知らない僕に出来る事は困っている人に募金する事です。

阪神淡路大震災（1995.1.17）を学んで

阪神淡路大震災は1995年1月17日午前5時46分52秒に起きました…阪神淡路大震災のことを神戸新聞の三好正文さんに説明してもらいました。当時の神戸新本社などの震災後の様子などを見せてもらったりしました。当時の三好さんは火事の取材から帰ってくる後輩を待ちながら雑誌を読んでいたとおっしゃっていました。三好さんの寝る場所は窓に張り付くようにあったそうで、もしそこで寝ていたとしたら割れたガラスが刺さったり、そのままベッドから放り出されて死んでいたと言っていました。その後三好さんは取材に行って、いく前はまだ倒れかけだった神戸市の柏井ビルが、帰ってきた時には倒れていたとのことでした。このように阪神淡路大震災のことを教えてもらってとてもいい勉強になりました。

新聞記事を読んでたくさんの地震や津波があるんだなと知りました。阪神・淡路大震災では、たくさんのビルが倒れたり6434人の人が亡くなられたりまだ見つかっていない人が何人もおられるなど知らなかったなので、驚きました。

阪神淡路大震災の当日の新聞を読ませてもらって、人の生の声や、その時の状況がよくわかりました。僕は当時産まれていなかったので詳しく知らなかったけど、三好さんや校長先生の話から当時の被害の大きさや怖さなどが知れました。

阪神淡路大震災をつないでいくのは、もしこれから阪神淡路大震災を知らない人が増えると、その当時亡くなった人や関係のある人たちの悲しさや恐れた気持ちがわからなくて、次に大きな地震があった時に何もできなくなってしまうから、つないでいると思います。

知らない自分達にできることは三好さんや校長先生の思いを感じて、自分の家族からでもいいから多くの人々に届けられるような取り組みをすることです。

阪神・淡路大震災で500人以上の人が生き埋めになったと記事に書いてあり、とても驚きました。

日本全国から救助をもらったり、今の明石はいろんな人に支えられてきているんだなと思いました

1995年近くの新聞は、震災のことがたくさん書いてあったけど、どれも被災者の心に寄り添うような文章で書いてあり、新聞をみた人は救われた気持ちになったんだろうなと思いました。

阪神・淡路大震災は自分が思っているよりも被害や死者が出ている事を聞き、驚いたのと同時に悲しい気持ちでいっぱいになりました。

阪神・淡路大震災を大切にするのは大きな被害に遭わないためや自分や家族を守るためだと思います。

阪神淡路大震災の話を聞いて

最初に阪神・淡路大震災の新聞を読んで思ったことは、「怖いなあ」「恐ろしいなあ」と思いました。理由はいっぱい建物が壊れたり倒れたりして、下敷きになって5400人の人が亡くなってしまっていたことです。それからもう28年経ったから阪神淡路大震災が起こったらどうしようなどと思いました。後新聞に、神戸の主要オフィスビルの2割が使用不可と新聞に書いてありました。建物はたくさん壊れるかもしれないから、瓦礫の中にうもったりしていっぱい行方不明者が出たと思います。話を聞いて思ったことは、阪神淡路大震災が起こって震度7が起こったらガラスなどが爆発して棚などが飛んでくるように見えたことや天井が落ちてきたなどとたくさん話を聞いて、とても怖いなと思いました。僕たちは阪神淡路大震災を経験したことがないから、もし起こってしまったら、とりあえず高いところに逃げて、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に連れて行って、荷物を持ってあげて、津波が来るとしても、めっちゃ早く来ないから走らず冷静に避難することが大切だと思います。

今日の話聞いて… (感想)

新聞を読み、阪神淡路大震災で大勢の人たちが亡くなり、大勢の行方不明者、怪我をしたことを知りました。当時の新聞を見ることで、ということがあったのか、どんな様子だったのかを感じ取れました。今日の学習で阪神淡路大震災を大切にし、それを繋いでいくということを学びましたが、今度は自分達がまた阪神淡路大震災のことを、繋ぎ大切にしようと思います。

阪神淡路大震災を大切にする、繋いでいくのはなぜか…

私は、阪神淡路大震災を大切にする、繋いでいくことで、もしまた自分たちに大きな地震が起きたら、必死にはなるけど、阪神淡路大震災のことを思い出し、冷静に考えればそれを参考にできると 생각합니다。

私たちにできること…

自分にできることは、もっと阪神淡路大震災を知って、それを繋いでいくことだと思います。

<阪神・淡路大震災を学んで>

阪神・淡路大震災がおこった時に実際に新聞を書いていらっしやった三好さんの貴重な話が聞けたり、校長先生が大事にとっていた当時の新聞を見ることができてとても良かったです。三好さんの話を聞いて、阪神・淡路大震災の大きな被害のことを忘れずにずっとつないでいく大切さがわかりました。そして被害だけじゃなく、亡くなってしまった方々のことや被害にあった町を元に戻すためにたずさわった人々のたくさんの努力も、忘れてはいけないとても大切なことなんだなと思いました。これからは、家族で災害や防災の事も話そうと思います。

（阪神淡路大震災を学んで）

＜新聞記事を読んで＞

私は大きな地震を体験したことは今はないけど、今日、昔の新聞を読んで、阪神淡路大震災は、明石も多くの被害があったけど、神戸はもっと大きな被害があって、神戸は多くの方が犠牲になってしまいました。それぐらい恐ろしい大きな地震だったんだと思いました。あまり知らなかった阪神淡路大震災だったけど新聞を読んで当時の人の声や、街の様子などを読んだり見たりして、初めて知ることも沢山ありました。

＜神戸新聞社の三好さんの話を聞いて＞

三好さんは、地震が起きたその当時の事を詳しく細かく教えてくれたので沢山の事を細かく知ることが出来ました。当時の被害の様子を、画像をつけながら教えてくれたので、今まで知らなかった被害などを知れました。

＜なぜ阪神淡路大震災を受け継いできたのか？＞

阪神淡路大震災で沢山の人が犠牲になって沢山の街に被害が出て、沢山の人の生活が変わってしまって、神戸の人々が絶対に忘れてはいけない震災だから

阪神・淡路大震災の話を聞いて・新聞記事を読んで

ぼくは阪神・淡路大震災の新聞記事を読んで、被害で学校関係が2500億円もしたことや、神戸の主要オフィスビルの2割が使用不能になったことから、阪神・淡路大震災での被害がこんなにあるんだとびっくりしました。他にも、死者は6434人でそのうちの1754人の遺体の身元が判明しなかったという新聞記事を読んで、死んでしまった人たちが、お葬式などもできないから、かわいそうだと思いました。阪神・淡路大震災の話を聞いて、震度7ってどれぐらいの強さなのか知らないから、震度7の地震が起こったときは、絶対に怖いと思います。

阪神・淡路大震災を大切にしたり、つないでいくのはなぜなのか

こんなに人が死んだりしてしまった大きな地震を忘れることができないからだと思います。そして、まだ行方不明の人もいるからという理由もあると思います。

知らない私たちにできること

こんな地震もいつかはくると三好さんが言っていたので、もし地震が起こったときの対策、例えば食料などを用意することなどができると思います。

阪神・淡路大震災のお話を聞いて・・・

阪神淡路大震災が起きた1995年の神戸新聞を読んで、1番最初に思ったことはまず「怖いなあ」と思いました。理由は、その時の人々の意見に「時代が終わった気がした」などの意見が書かれていたのと、他に、1754人の遺体の身元が判明していないという事と現在も数千人の人が未だ発見されていないからです。「時代が終わった気がした」と言うくらいの揺れだったということがなんとなくわかるからです。そして現在も身元がわかっていないだけでなく「発見されていない」人がまだいるから怖いなと思いました。

阪神・淡路大震災を経験していない僕たちに出来ること・・・

正直に言って阪神・淡路大震災を体験していないから、僕たちは何をしたらいいのかわからない。この先20年～30年たった頃には「阪神・淡路大震災」を体験したことがある人がいないかもしれないから、阪神・淡路大震災の事を未来に引き継いでいかないといけな。体験した人がまだいるうちに、地震などを調べ、未来に引き継ぐことができるんじゃないかなと思いました。

～新聞記事を読んで～

新聞を読んで心に残った言葉は「当たり前前の日常が当たり前でなくなった日」という言葉です。私は今学校で勉強したり友達と遊んだりすることを当たり前と思っています。でも、もし大震災が起こったらどうなるのか、私が思っているあたりまえは無くなってしまいかもしれない。生きているのかどうかもわからない。いつも通りの生活を送ることは、当たり前じゃない、感謝して生きなくてはならない。そんなことがわかる記事でした。私も1日1日を大切に生きようと思いました。

～話を聞いて～

実際に経験した方の話だったので、とてもわかりやすかったです。今日聞いた話を家族にも話していろんな人につなげたいと思います。また、家族の人にも経験した話を聞こうと思いました。震災の教えや教訓を忘れずに生きようと思います。

【阪神・淡路大震災のお話を聞いて】

今回お話を聞いたり新聞を読んだりして、この震災でたくさんの方が命がなくなっていること、大きな被害があったことを改めて知ることができました。被害にあった町を復興して今まで繋いできてくれた人たちはすごいと思います。絶対に忘れてはいけない事だと思いました。次は私たちが伝えて行く番なので阪神・淡路大震災のことをしっかりと未来へ伝えていきたいと思っています。

阪神淡路大震災を学んだ感想

私は、阪神淡路大震災で、どんな事が起こったのかわからないけど、授業の中で震災のことを学んだ。死者数が6400人以上でとてもびっくりしました。淡路島付近全体がすごい勢いで揺れ、ビルも一軒家も全部崩れ落ちることを想像すると、怖くなりました。私は震災の話聞いた後に、私その他、震災を経験していない人に震災が起きたらこんな被害に遭うのと、震災がどれだけ人とこの街を傷つけるのかを伝えたいと思いました。

阪神淡路大震災

今日話しを聞いて地震は、やっぱり怖いなと思いました。新聞には神様が人を殺しているみたいと書いていたし、他にも色々そのときの人が言っていたことがいっぱいありました。校長先生に問われた阪神淡路大震災をなぜ忘れてはいけない、大切にしているかということ次、大きな地震があった時に、また大きな被害を出さないためだと思います。

昔の大震災では、1754人の遺体が判明していなくて、亡くなった人が6400人以上もいました。災害はとても危険です。未来では、過去にこんなことがあったと言うことを知らない可能性があるのです、それを今若い自分達が伝えたいと思います。